

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572307601		
法人名	有限会社キクチ縫製		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	秋田県南秋田郡八郎潟町夜叉袋字中羽立74-10		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成24年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさを大切に寄り添い支援する」を理念としています。出来る事は見守りながら出来ない事は寄り添いながら支援しています。町の中心にある施設で、幼稚園、小中学校との交流もあります。地域の行事にも参加して施設に来るのを待つだけでなく積極的にこちらから出掛ける場合もあります。運営推進委員会のメンバーも役場、町内会、警察、消防、民生委員、御家族等地域に密着した多方面からの支援が得られより良きアドバイスを頂き地域にも広めて頂いています。認知症を町の方々に知って頂くため認知症サポーター養成事業にも関わらせて頂いています。開設10年目に入り地域の方々にも少しずつグループホームの役割が理解されてきているようです。御家族や地域との繋がりを大切にしながら毎日に生活を楽しく過ごせるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

H22年4月に1ユニットから2ユニットに増床され、各ユニットの特徴を生かし、利用者がよりよい生活ができるように、双方で協力し合いながら、その人らしさを大切に、一人ひとりに寄り添い、出来ること、出来ないことを見極めた自立支援が行われています。住宅街の密集した場所に位置し、事業所独自の災害対策の工夫や火災・地震・停電時の想定訓練、事業所のノウハウを生かし、認知症の理解や支援方法の発信、運営推進会議を通じての地域との連携、各種ボランティアの受入、地域行事・イベント等への参加等々、地域に根差した取り組みが観られます。職員、利用者ともに穏やかで、明るく、やさしい笑顔が観られる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を掲げその人らしい生活を大切に支援している 職員の目標も理念に基づいている	本人・家族等からのアセスメントから今までの暮らしを継続できるように気持ちを汲んで「その人らしさを大切に寄り添い支援する」という理念を職員で考え、日々のケアで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の方でも地域の行事、学校行事、交通指導隊等に関っている 幼稚園、小学校、中学校との交流もある	近隣への散歩や地域行事への参加、ホーム行事への招待、ボランティアの受入、事業所のノウハウを生かした認知症理解や支援方法の説明など、地域の一員として交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町の包括支援センターが行っている認知症サポーター養成に参加させて頂き認知症の理解や支援方法を説明している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っている 町内会、民生委員、警察、消防、役場、御家族等多方面の方々の意見やアドバイスを頂いており地域にも施設の取り組みを広めて頂いている	事業所の状況・行事報告等が行われ、駐在所員や消防署員、地域住民、民生委員、包括等から地域の実情報告や双方向で質問、助言等が活発に行われ、サービスの向上に活かしています。終了後は利用者と共に食事会も行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居の相談、サービスに繋がらなくとも認知症の対応など市町村と連携をとりながら行っている	入居相談や空床状況の報告・確認、更新時の状況説明、身元引受人不在の場合の対応等々、相談や助言等の協力関係を築き、連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは理解されている 施錠は夜間以外はしていない 薬の拘束も症状が治ったら減らしていけるよう医師と相談をしている	身体拘束をしないケアを理念に掲げ、掲示すると共に、採用時のオリエンテーションで説明が行われ、周知徹底しています。基本的には見守り対応が行われ、夜間で対応が困難な場合は、職員の応援で臨機応変に行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いの対応に注意を払っている 虐待防止のマニュアルがある	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用された方はいない 回覧等で学べるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけ説明を行っている また解約に至る場合は医師からの診断も説明している(嘱託医との相談を必ず行っている)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはなるべく御家族と話し合える時間を作ったり相談しやすい環境を作っている 要望はミーティングですぐに話し合い対応策を実行できるよう申し送りしている	家族等からは、面会時に状況報告をし、意見や要望を伺い、利用者からは、日常会話で、また困難な場合は、表情や行動から汲みとるようにしています。苦情はありませんが、要望等は運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見を頂いている	ユニット毎に職員会議を行っており、意見や提案を聞く機会を作られています。また、管理者を通じて、必要な情報は、他方のユニットにも伝達されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	若い職員も増え資格取得に向けやりがいを持って様支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では研修担当に研修を進行してもらったり資料作成に携わってもらいレベルアップを図った 施設外ではなるべく全員が1回でも参加できるよう配慮した		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南秋、全日本等のグループホーム協会で研修や交流があり勉強させて頂いた機会は多かったため今後も参加して向上していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前に体験できる体制をとっている 本人の不安を受け入れ少しずつ慣れて頂ける様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や要望も受け入れながら説明、見学ができる体制にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し共に支えあい生活していく事を大切にしており、それが理念にもなっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はなるべく情報を提供しながら家族と一緒に支援する方向を考えている 本人にとっても御家族が一番必要だという事を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望する馴染みの場所にはなるべく行けるよう支援している	行きつけの理美容院や治療院等、本人の希望に沿った支援のほか、隣、近所の友人の面会もあり、関係継続の支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が一人ひとりの情報を共有している さりげなく声をかけたり間に入ってトラブルにならないよう馴染みの関係に繋がっていくよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば面会に行くようにしている また今後の相談にものっとりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく情報を多く集められるよう努力している。今までの生活パターンであわせられるところは尊重している(起床、就寝時間、入浴、食事の嗜好等)	利用者の行動や話し等から、思いや意向の把握が行われています。また、家族からの情報をもとに行動分析が行われ、柔軟な対応が行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活パターンを本人、御家族、近隣等から情報を得ている。また今まで関わったサービス事業者の方にも必ず情報を頂くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表で出来る事、出来ない事を把握するようにしている。会議、申し送りサポートする事を明らかにして共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議での検討、御家族の希望も含めて計画を立てている。日頃の面会時の会話や電話で相談や要望を確認する事もある	センター方式でいろいろな視点から捉えたアセスメントが行われ、職員会議で問題点を共有し、計画担当2名で話し合い、利用者・家族等の意向を反映した介護計画を立案。日誌はプランに沿った記載が全職員が出来ることを目指しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議、ミーティング、記録等で情報を共有している。介護記録とケアプランは一緒になっておりチェックしながら記録できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望をふまえなるべく馴染みの所へ行けるよう支援している(運動会、盆踊り、美容院、治療院等)		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医とも連携をしながら希望に沿うように利用前に確認をとっている	本人・家族の希望する医療機関の受診ができ、状況に応じた対応が事業所、家族等で行われています。また、月に2回の訪問診療もあります。定期受診結果は、毎月の状況報告時に、それ以外は都度、家族に報告し情報の共有が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との直接的な関わりはないがいつでも協力医院と連絡が取れる体制になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず今後の治療方針を確認している また協力医院の方から事前に医療情報が提供されており治療や対応が的確に行われている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時だけでなく状況に合わせて出来る事、出来ない事を明確に伝えている 嘱託医の説明もしている	医療行為が発生する場合を除き、十分な話し合いの下、出来るだけの対応を行う事で、利用者、家族、職員等で方針の共有が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変対応のマニュアルはあるが職員の中に不安もあるようなので勉強会、研修は行っていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は行っている 地震想定での避難訓練等も行った 運営推進会議でも消防署員よりアドバイスを頂いている	火災発生時の定期避難訓練のほかに、職員会議前に夜間想定での訓練が行われ、全職員が対応できるようにしています。また、地震発生時や停電を想定して電気を使わず、備蓄での生活を体験するなど、優れた取り組みが観られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人面談で指摘する事もあるがなるべくお互いが気をつけて改善するようにしている	プライバシーに関する研修も行われ、一人ひとりの人格を尊重した取り組みが観られます。配慮に欠ける職員がみられた場合、都度指摘にて改善するように話されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定できる場面を多くしている 難しい方は選択できる方法を取っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべてというわけにはいかないがなるべく個々のペースに合わせて寄り添うようにしている その日の体調、感情を把握しながら声かけしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の選択に任せた上で季節や気温にそぐわない時はさりげなく支援している それぞれシーンに応じて気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理なく自分の出来る範囲で食事作り、片付けをしている 食事作りは職員が見守りながら一緒におこなう 台所からのにおいや音も食事の楽しみなので大事にしている	下ごしらえや味付け、盛り付け、下膳、食器拭き等々のお手伝いをいただきながら、出来ることが最大限に生かせるよう、取り組まれ、食事を楽しむことができるように支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握、記録をしている 食べれない物は代替、不足している物は捕食している 義歯のない方は軟らかくしたり刻んだりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、うがいの声かけをしている 義歯の清潔のため洗浄剤を使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせたトイレ誘導、交換を行っている。使用するオムツも排泄量や時間帯に合わせて変えている。オムツをしていてもトイレでの排泄の支援をしている	トイレでの排泄を基本とし、声掛け誘導が行われています。また、排泄チェック表で夜間の睡眠・排便状況の確認が行われています。排泄用品は、一人ひとりの状態に合わせ、日中・夜間の態様を変える等の配慮もしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の摂取、運動、マッサージ等の対応をしている。個々に応じて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はこちらに合わせてもらっていることが多くなってきたが、なるべく入りたい希望を取り入れるようにしている	1日に3～4名午後からの入浴で、週に2～3回の入浴となっています。入浴できない場合は、次の日や足浴・手浴等で臨機応変に対応しています。また、1番風呂や最後等、順番についても希望に沿って実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度の確認、寝具の確認をしながら巡視している。眠れない方はホットミルクを提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬ファイルがあり薬の目的、副作用が確認できるようになっている。かかりつけの薬局にすぐに確認できる体制になっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	だんだんやれる事が少なくなってきたはいるが見守りしながら一緒に楽しみごとができるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	その日の状況にもよるがなるべく希望にそってようになっている。御家族との外食も楽しみのひとつなので要望として御家族にお願いしている	散歩等の日常的な外出のほかに、季節ごとの外出、ドライブ、外食、買い物、地域行事への参加、イベント見物、春秋の日帰り旅行等々、多くの外出の機会を持ち、出かけられるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をした時は職員と一緒に出掛けている 支払いは職員に任せる事が多い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人の希望に沿って行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度、湿度は確認している 光や音にも配慮している 行事や手工芸は季節感を取り入れるようにしている 季節の生花、木の実等も拾いに行った時は飾っている	ユニットによる造りや広さの違いはありますが、温度・湿度、光等に配慮され、ソファやテレビ等、くつろげる場所の確保、季節感の感じられる作品の展示、カウンター越しのキッチン等、居心地良く過ごせるような工夫が観られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	玄関、廊下等に椅子を用意し一人になれる空間を作っている 隣の棟と行き来する事が出来お茶をご馳走になったり談話したりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ってきて下さるようお願いしているがあまりもってきて頂けない	本人にとって必要と思われるテレビや仏壇、身の回りに必要な小物等が持ち込まれ、それぞれが居心地よく過ごせるように工夫が観られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に目印を付けたり色分けしている トイレの戸の周りも色分けしている		